



凍結しやすい条件・箇所

- ・マイナス4℃以下（日陰や風当たりの強いところはマイナス1～2℃）になったら要注意
- ・屋外で露出（むき出し）している水道管
- ・家の北側や陽の当たらない場所の水道管
- ・風当たりの強い場所にある水道管
- ・給湯器など凍結しやすい給水装置に注意



メーターボックス、どこ？

1 止水できない人、多数！ 今すぐ位置の確認を

2月の寒波では、破損漏水し止水栓を止める際「メーターボックスがどこにあるか分からず、止水できない」という事例が多く発生しました。寒くなる前に、自宅のメーターボックスの位置を確認しておきましょう。



漏水点検の手順

1 全ての蛇口を閉める

- ・給水装置、給湯器などの自動で流入する部分も閉める

2 パイロットを確認する



- ・メーターのパイロットをしばらく見て、パイロットが回っている場合は宅内漏水の可能性あり

もし凍結したら…

1 蛇口を開け、自然に溶けるのを待つ

または

2 めるま湯をかけ、ゆっくり溶かす

- ・凍った部分にタオルなどをかぶせる
- ・めるま湯をゆっくりとかける



いきなり熱湯をかけると水道管や蛇口が破損することがあるので注意！

破損漏水したら…

1 止水栓を閉める

- ・破損漏水箇所を確認する
- ・メーターボックス内にある止水栓を閉める
- ・破裂した部分に布やテープをしっかりと巻き応急処置をした後に修理を依頼する

2 市指定給水装置工事事業者へ依頼する

- ・水道メーターから宅内の修理（給水装置含む）は、市役所担当課では対応できません
- ・市指定給水装置工事事業者へ依頼を
- ・修理費用は個人負担

空き家での漏水、多数発生

1 空き家の持ち主・管理者は、対策を

2月の寒波では、特に空き家での漏水が多数発生しました。空き家の持ち主や管理者は、次の手順で水道管内の水抜きをしておいてください。

- ・メーターボックス内の止水栓を閉める
- ・1番高い位置にある蛇口と1番低い位置にある蛇口を開け水を抜く（一般的に2階洗面所→キッチン→風呂→庭の立水栓→散水栓の順）
- ・止水栓は閉めたままにしておく
- ・給水装置（給湯器など）は取扱説明書をよく読んで水抜き処理をしておく

あの断水を繰り返さない

ために

水道管を凍結から守る方法



平成30年2月8日。記録的な寒波により、家庭の水道管や給水装置が、凍結破損しました。特に宇和地域では、凍結破損に伴う大量の漏水が発生。広域断水が1週間続きました。漏水が同時多発し、給水量が急激に増えると水道水が足りなくなります。懸命な修理も追いつかなくなると復旧に時間がかかり、長期間、水が使えなくなります。水道管などを凍結から守る対策を、必ず実施しましょう。不明な点は、お問い合わせください。

問 上下水道課 ☎ 62-6411



凍結予防の方法

1 寒くなる前に保温対策

手順



- ・屋外の水道管や蛇口は、保温材や毛布、布きれなどで蛇口の上まで完全に包み、ビニールなどを巻いて濡れないようにする
- ・北側の床下部分が開放されている場合は、床下の配管への北風の直撃を防ぐために一時的に板などで塞ぐ

2 冷え込みそうな夜は…



- ・蛇口（メーターから最も離れた場所の蛇口も）から、少量の水を出しておく。水はバケツなどに貯め、再利用する
- ・浴室も給水・給湯器が凍ると、丈夫なカーンでさえ破損することがあるため、少量の水を出しておくこと

給水装置（給湯器など）にも注意

- ・蛇口を止めても給湯器内部や配管内に水が残り、この水が凍ることがあるため、取扱説明書で凍結防止方法を確認しておく
- ・メーターボックスの中には毛布や布きれ、新聞紙などを入れ（写真右）、メーターボックスの上にダンボールなどをのせて保温することも効果的

